

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議(第 23 回)

日時：平成 29 年 3 月 30 日 (木) 10:00～12:00

場所：名古屋能楽堂会議室

会議次第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 建造物部会（第 22 回）の報告

・本丸御殿修復工事について

(2) 石垣部会（第 20 回）の報告

・平成 28 年度石垣修復工事について

(3) 庭園部会（第 15 回）の報告

・名勝名古屋城二之丸庭園の発掘調査について

・名勝名古屋城二之丸庭園の名勝区域の拡大について

・名勝名古屋城二之丸庭園の修復整備について

(4) その他

・名古屋城重要文化財等展示収蔵施設について

・天守閣木造復元について

4 その他

5 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第23回）出席者名簿

日時：平成29年3月30日（木）10:00～12:00

場所：名古屋能楽堂会議室

(敬称略)

■構成員

氏名	所属	備考
瀬口 哲夫	名古屋市立大学名誉教授	座長
丸山 宏	名城大学教授	副座長
赤羽 一郎	愛知淑徳大学非常勤講師	
小浜 芳朗	名古屋市立大学名誉教授	
高瀬 要一	公益財団法人琴ノ浦温山荘園代表理事	
麓 和善	名古屋工業大学大学院教授	
三浦 正幸	広島大学大学院教授	

■オブザーバー

氏名	所属
平澤 豊	文化庁文化財部記念物課文化財調査官
野口 哲也	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主査
神谷 浩	名古屋市教育委員会博物館副館長

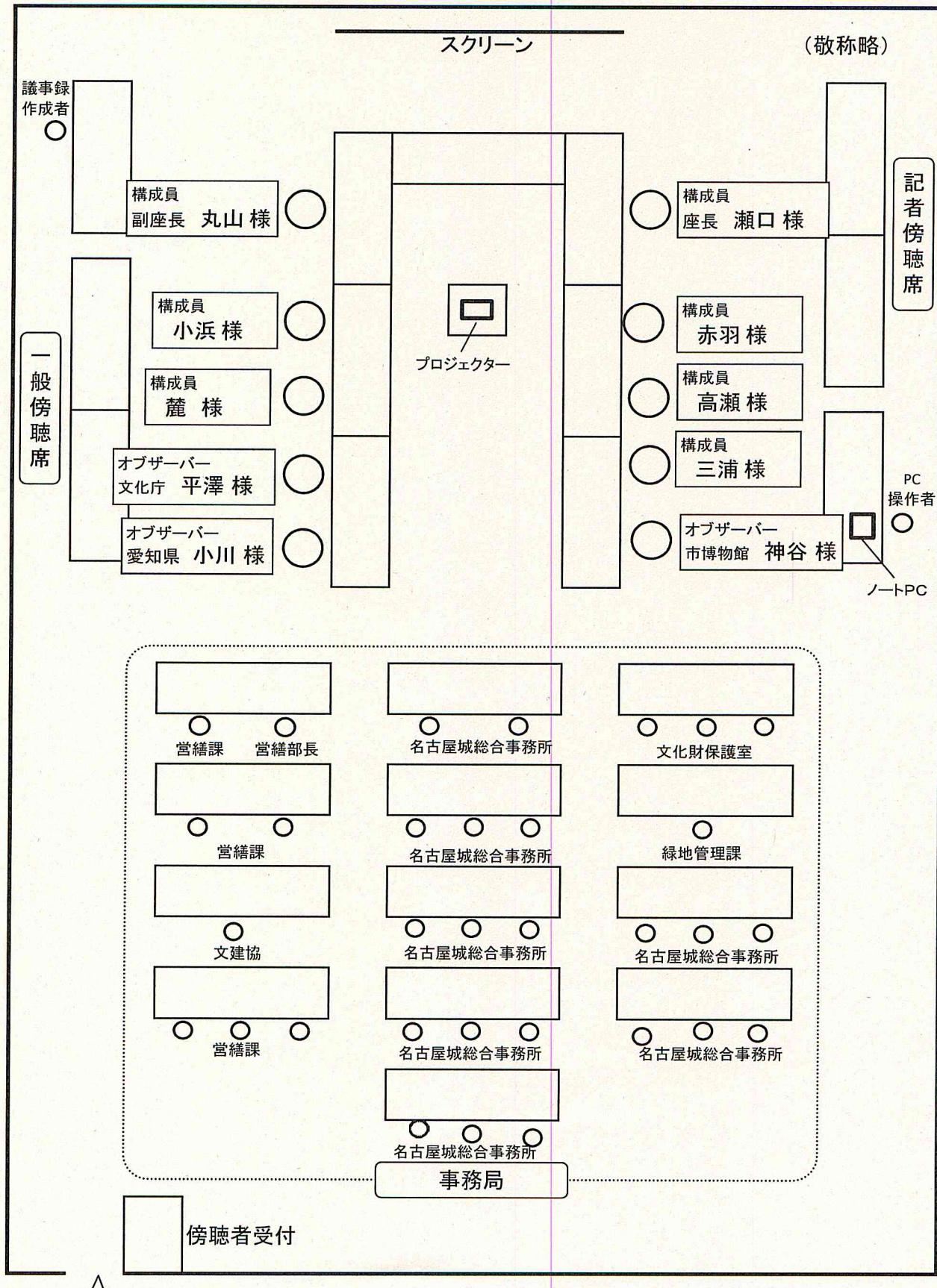
特別史跡名古屋城跡名古屋城跡全体整備検討会議(第23回)

座席表

平成29年3月30日(木)

14:00~

名古屋能楽堂会議室



特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第23回） 資料

（1）建造物部会（第22回）の報告

- ・本丸御殿復元工事について

…p.1～p.5

（2）石垣部会（第20回）の報告

- ・平成28年度石垣修復工事について

…p.6～p.10

（3）庭園部会（第15回）の報告

- ・名勝名古屋城二之丸庭園の発掘調査について
- ・名勝名古屋城二之丸庭園の名勝区域の拡大について
- ・名勝名古屋城二之丸庭園の修復整備について

…p.11
…p.12
…p.13～p.15

（4）その他

- ・名古屋城重要文化財等展示収蔵施設について
- ・天守木造復元について

…p.16～p.31
…p.32～p.33

1 本丸御殿復元工事について

1-1 工事状況について

《本丸エリア》素屋根内部状況

上洛殿、上御膳所では屋根工事、内部造作工事を、湯殿書院、黒木書院では建て方準備を行っています。



①[上洛殿] 内部状況

[H29. 1]



②[上御膳所] 内部状況

[H29. 1]



③[上洛殿] 屋根状況（東より臨む）

[H29. 1]



④[上洛殿] 屋根状況（南西より臨む）

[H29. 1]



⑤[上御膳所] 屋根状況（南西より臨む）

[H29. 1]



⑥[黒木書院] 外部状況

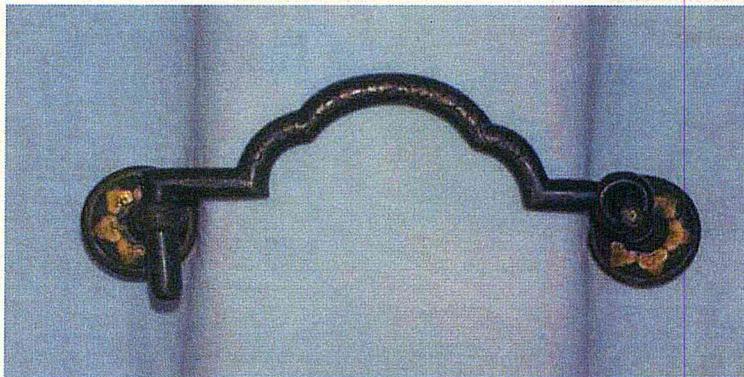
[H29. 1]

1. 本丸御殿復元工事について

1-3 建築装飾ワーキング等の検討内容報告

ワーキング実施日：平成28年8月30日

①第3期飾金具の作成方針について

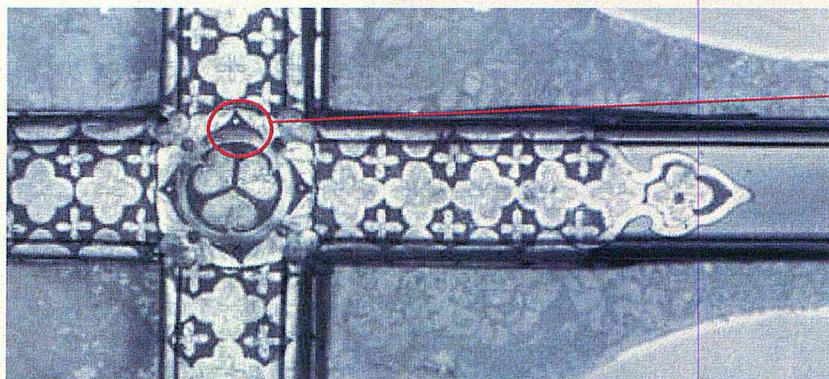


打掛け金具 U型（上洛殿ほか）（実物）

慶長期は銅に金鍍金、寛永期は真鍮という設計であるが、分析では真鍮のもので微量の金を含むものがある。

・真鍮製でも金鍍金しているのではないか。鍍金していなかったら、こんな良い色の状態はないだろう。

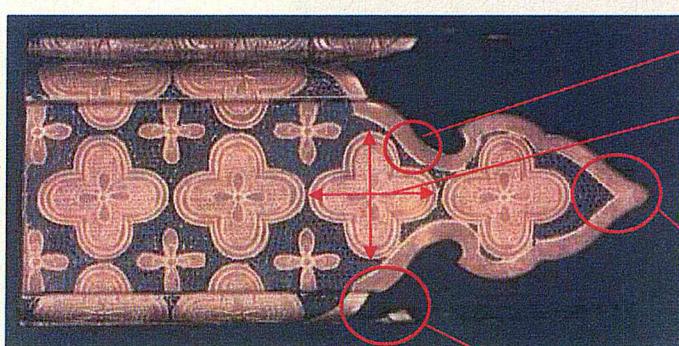
・X線分析確認をすると良い。
(→X線分析は事務局にて実施予定)



湯殿書院上段の間天井辻金具（古写真）

(旧止釘穴)

・飾金具の止釘は通常金色の釘を使用し、使い分けはしていないと思われるが、背景黒地に金を入れると目立つのも事実である。二条城の止釘を確認するべき。



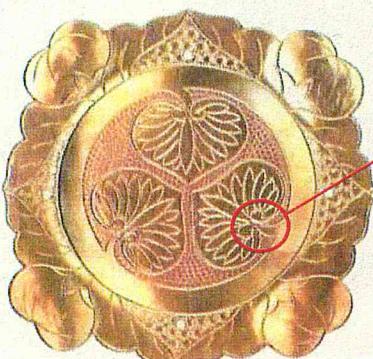
同上 試作品

四葉と縁の取合い古写真をよく見て修正する。

四葉の縦横比が同じになっているが、写真で見ると違う。幅側のほうを長くする。

先端の突起部分の膨らみ方を古写真をよく見て修正する。

肩を幅方向へ延ばす。



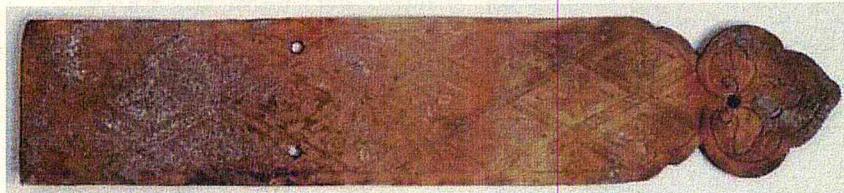
同上 中央金具試作品

葵の下のしぶ、ふくらみを大きくすること。
その他は程よい。

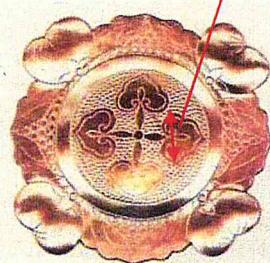


湯殿書院入側天井辻金具 試作品

焼損金具を確認すると、菱形の中の四弁が若干大きいので修正すること、魚々子地との割合も確認する。
厚みは焼損の方が少し薄いように見えるが今の厚みを変えるほどではない。



同上 焼損金具
もう少し扁平にする

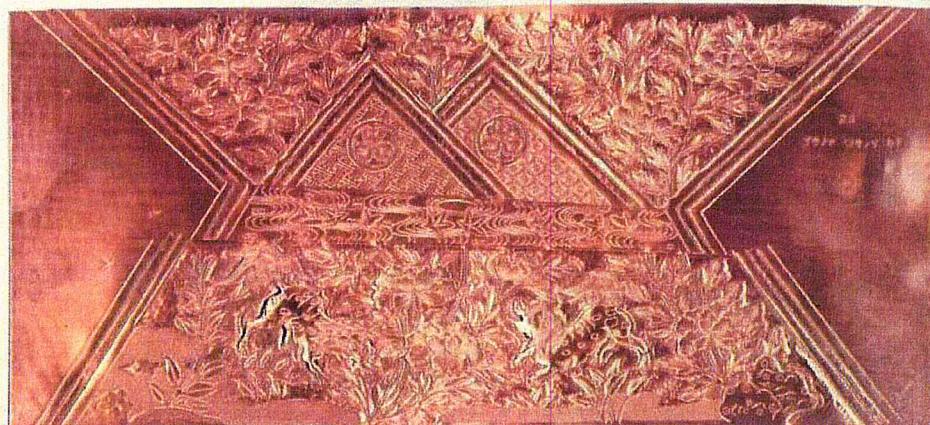


上洛殿菊之廊下天井辻金具試作品

形を整える。

同右 中央金具試作品

蹴影をもっと荒く強く。
(全体的にいえる傾向)



上洛殿熨斗金具（獅子）（製作途中）

花熨斗金具は全体的によくなってきている。



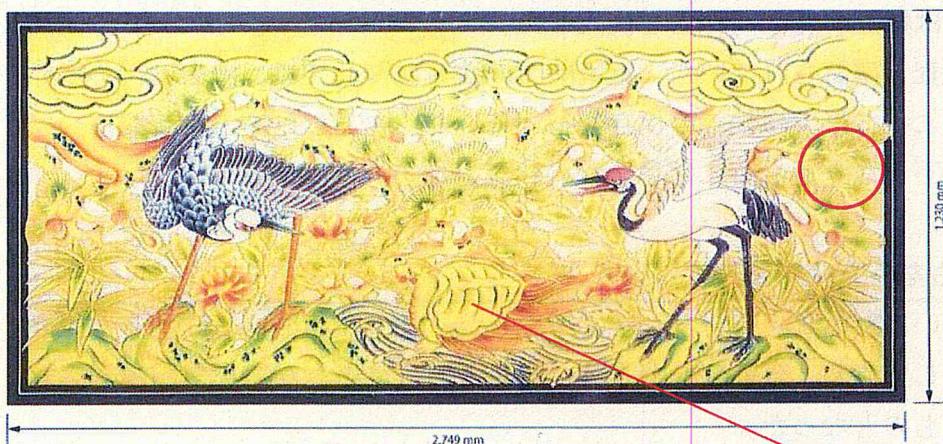
同上 拓本

②上洛殿欄間彫刻 彩色見取図進捗状況について



・松の葉はもっと色が付いているように思われる。絵画ではぼかすが、彫刻ではあまりぼかさない。(古写真でみた限りでは)このような塗り方が名古屋城の塗り方なのかもしれないが、名古屋城の欄間彩色は特にかわっていて類例が見当たらない。

見取図1 上洛殿一之間北側長押上欄間 西より1枚目 (表、設計 No. 1)

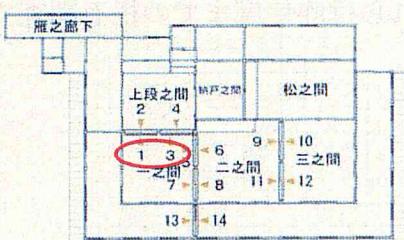
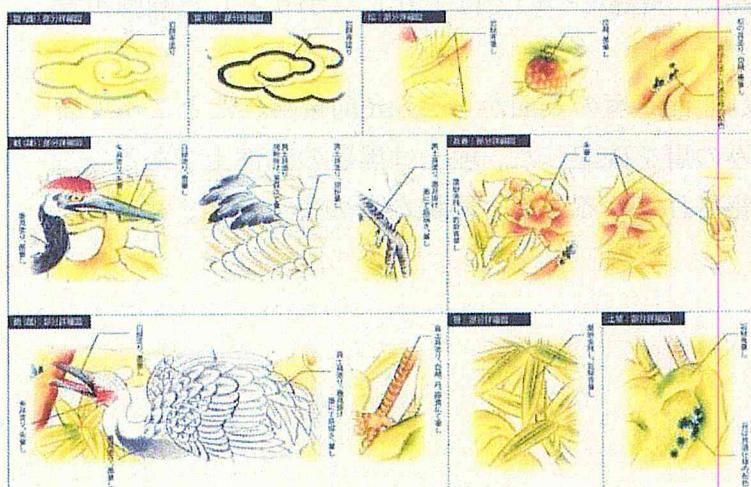


古写真をよく見ると亀の甲羅には亀甲模様が付いている。

見取図2 上洛殿一之間北側長押上欄間 西より2枚目 (設計 No. 3)

(全体として)

- 江戸期の定石通りの色も参考にして塗ってみる。
- 時代が下がるるけれども色を指示した本(雛形)があるはずなのでそいつたものを参考にしてみるとよい。
- 印象的にはぼかしが勝ちすぎている。葉については、群青か藍でふかしている場合がある。



見取図3 各部詳細 (全欄間のうち特徴部分)

(欄間配置 設計No)

1 平成 28 年度石垣修復工事について

平成 28 年度の修復工事は、本丸搦手馬出石垣前面での枠工による補強工事を行った。

主な工事内容

枠工

石垣前面に杭と貫、石による補強を行った。施工面積は予算の関係から、全体の施工予定面積の半分ほどとなった。施工位置は図 1 に示した部分で、本丸搦手馬出石垣の北東角を中心に、西側と南側へ設置した（写真 1～6）。

長さ 4.0m の杭の打設を行い、杭は貫によって連結し、杭内部から石垣面までに捨石を充填した。杭および貫は松材を用い、貫を杭に固定するための栓は栗材を利用した。石材については幡豆の花崗閃緑岩を使用した。

昨年度までの調査で確認されていた、石垣前面の捨石に関しては、撤去は行わず枠工の中に取り込むような形で現地での保存を行っている。施工した枠工の天端については、水堀の水面下となり通常時には見えない状況となる。

2 石垣修復にともなう文化財調査について

枠工の設置に伴い、文化財調査を合わせて実施した。石垣前面の捨石に関しては昨年度までに記録をしており、今年度の調査は、掘削に伴って新たな遺構等が検出されるかの確認が主なものとなった。

主な調査の内容

枠工にともなう調査

枠工に伴う掘削で、石垣の北東角部における捨石の状況の詳細が明らかとなった。他の部分と比べ、石材が組むように入れられている。石垣前面の捨石は、天和期の修復の範囲と対応している可能性が高く、角部についてはよりしっかりととした補強が意図されていると考えられる（写真 7・8）。

また、堀底面において、東面及び北面石垣の表面から 2.5m 前後離れたところで石垣構築に伴うと考えられる掘り込みの肩を確認した。埋土は黒色の粘性土である。これらは昨年度までの根石調査で確認されている成果と同様なものであった。

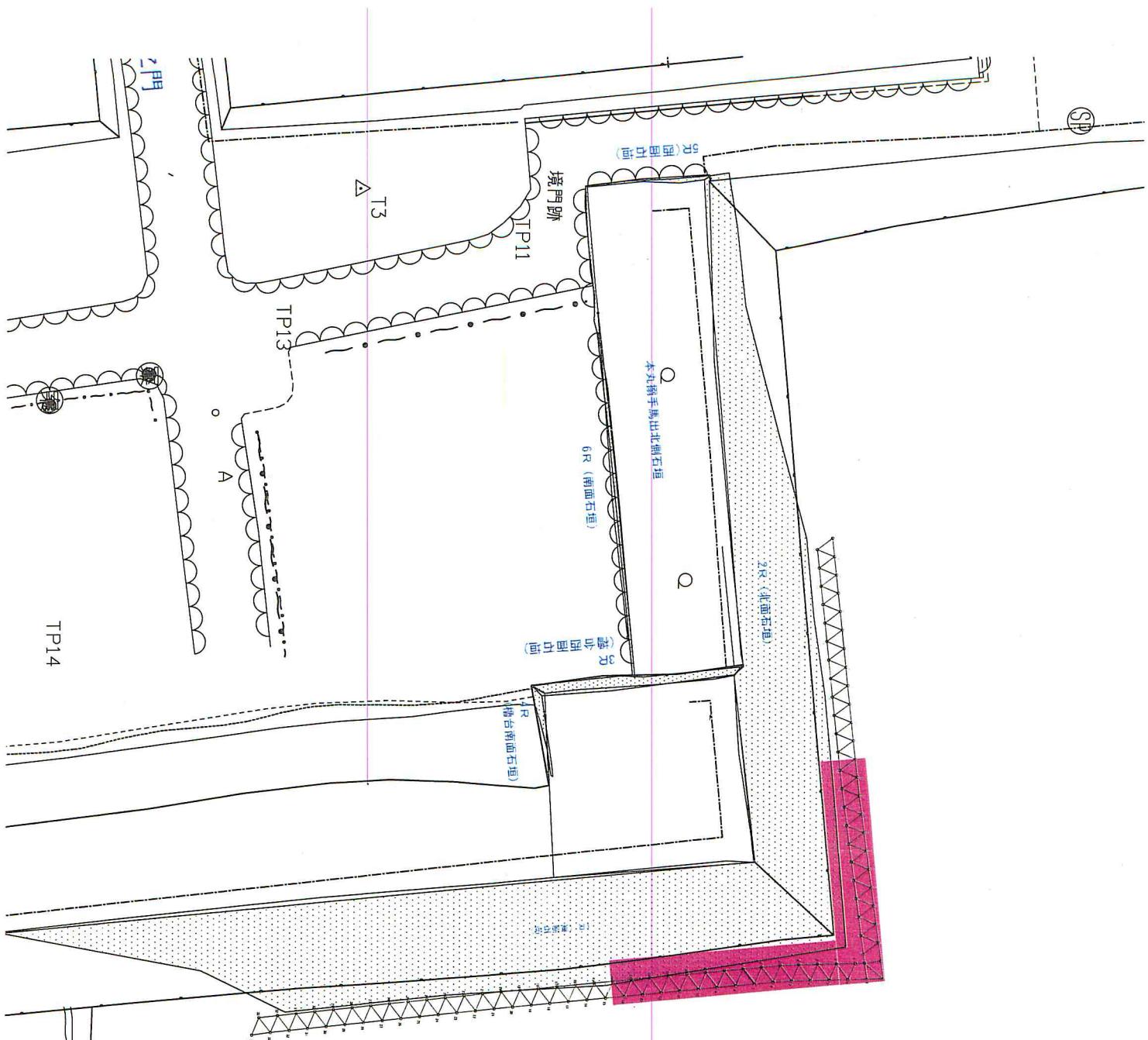
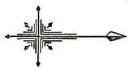


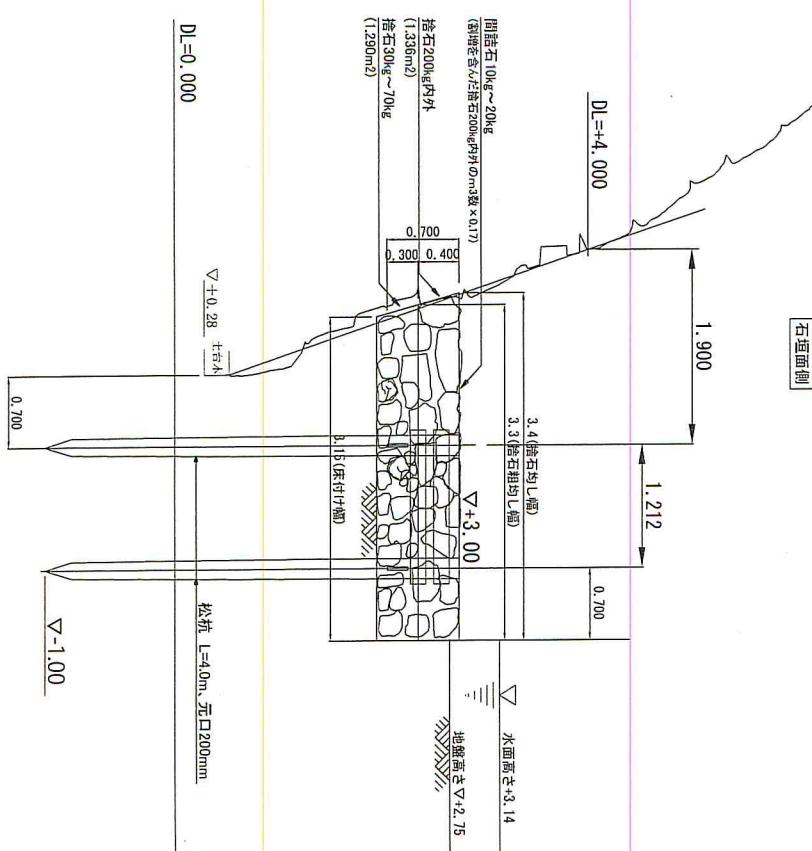
図1 梱工施工位置図



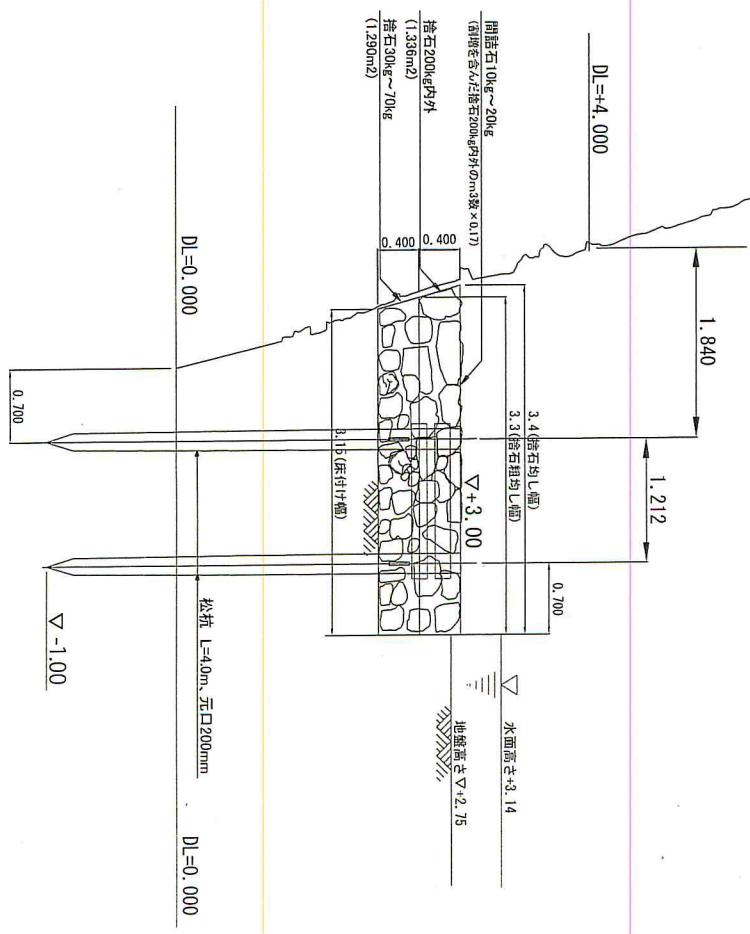
本年度施工範圍



東面



北面



0
S=1:50
2.0m

図2 柵工施工断面



写真1 桁打設状況 東面 北東から

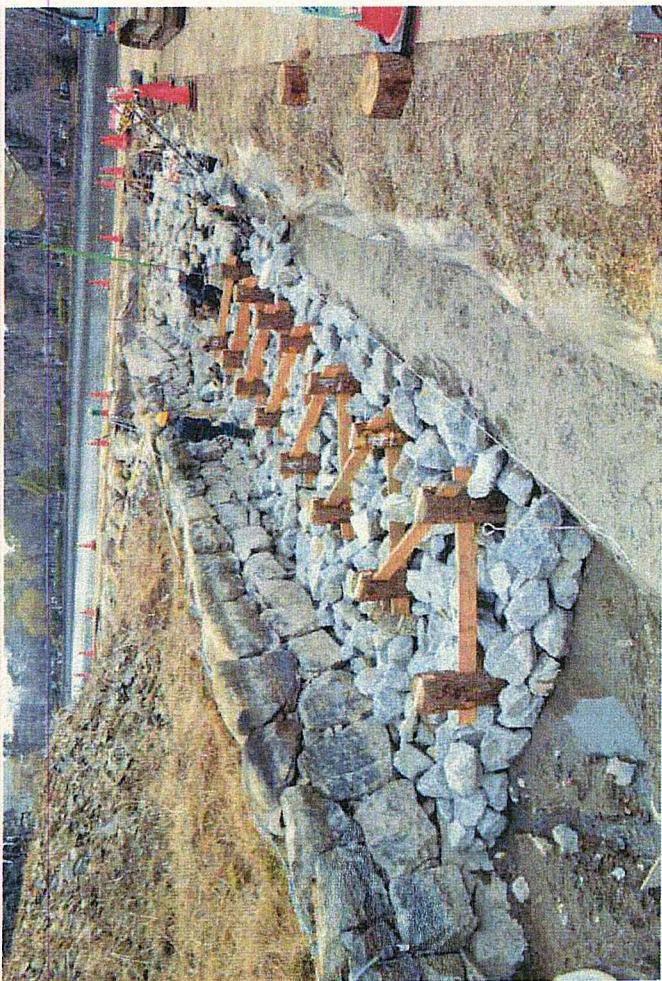


写真3 捨石投入状況 東面 南東から

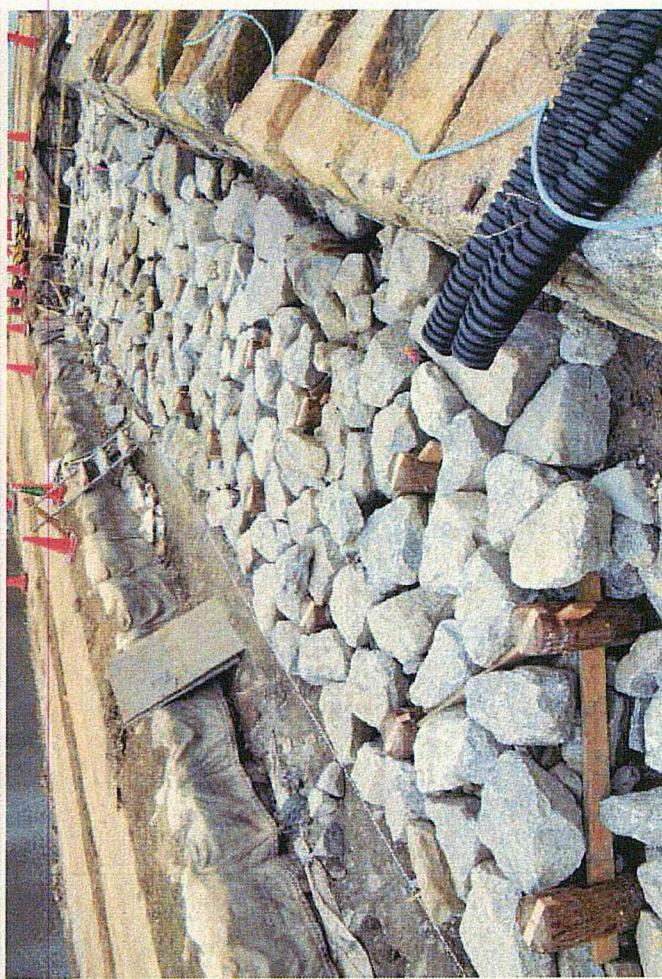


写真4 捨石投入状況 北面 南西から

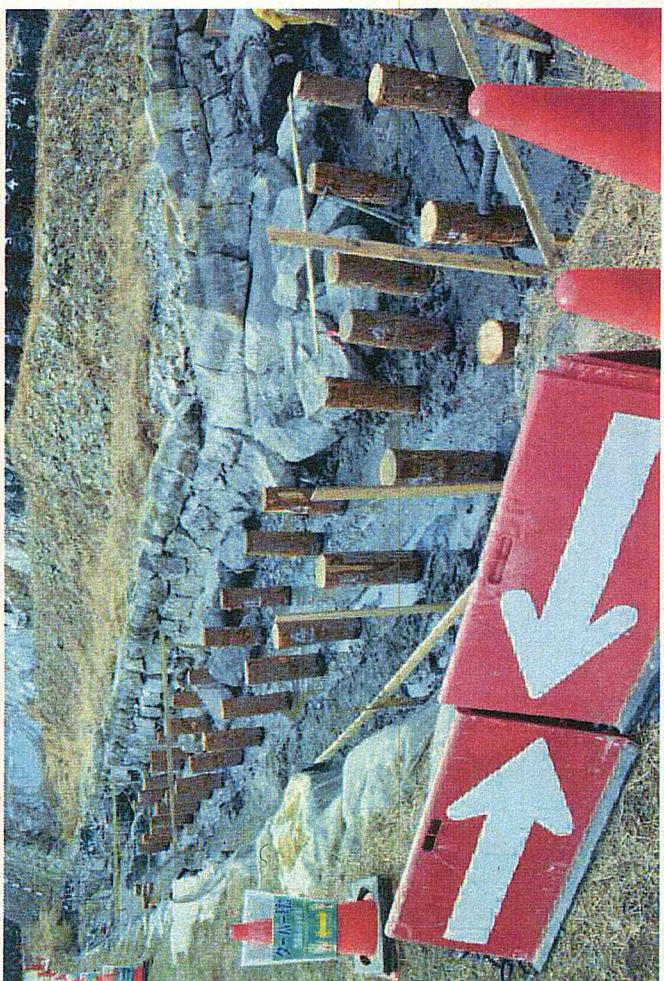


写真2 桁打設状況 北面 北東から

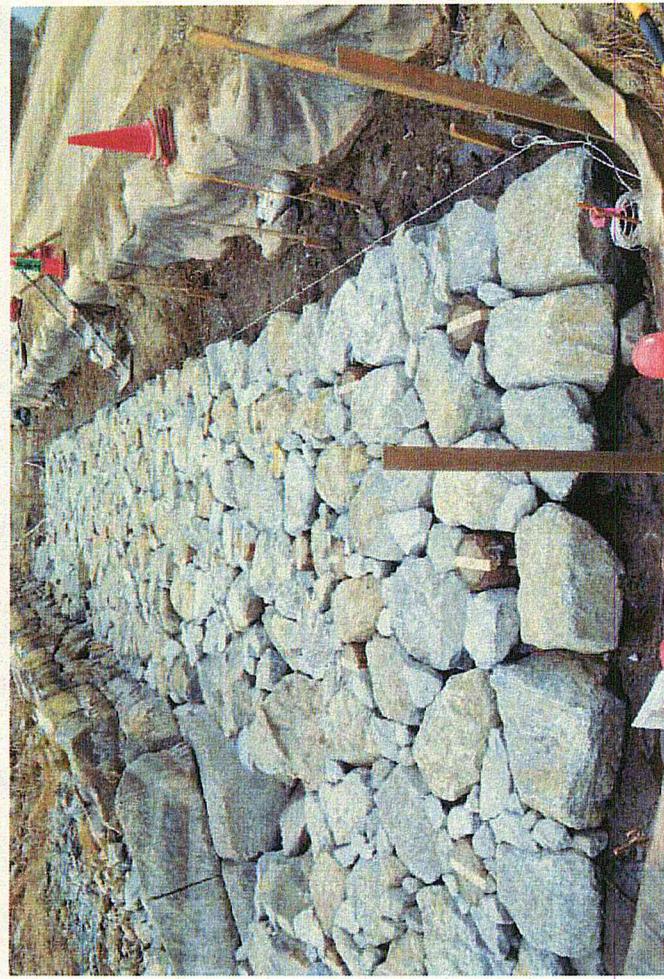


写真6 柱工施工状況 北面 東から

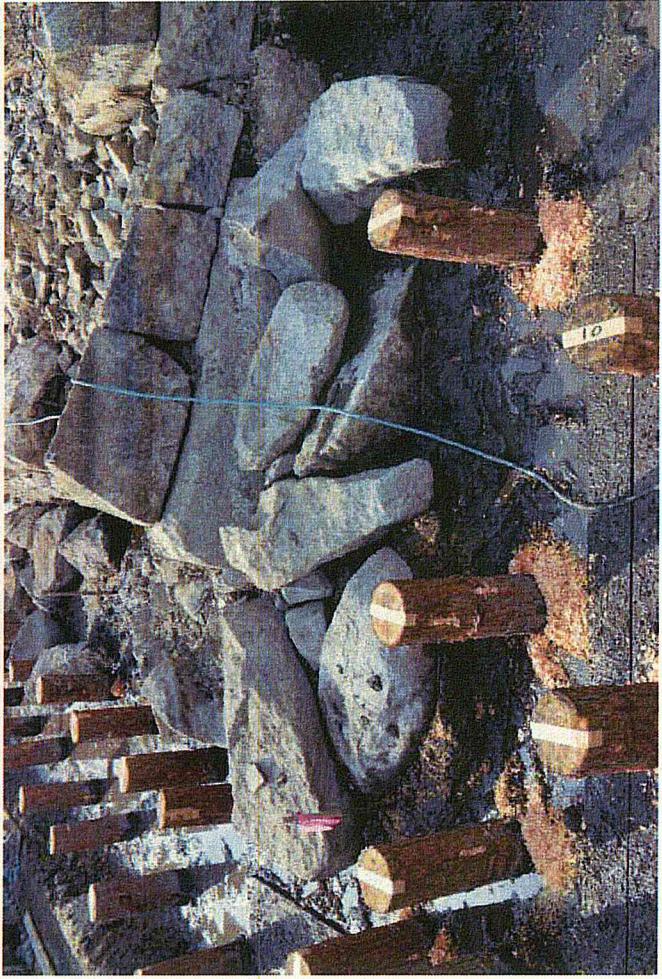


写真8 北東角の捨石 北面 北から

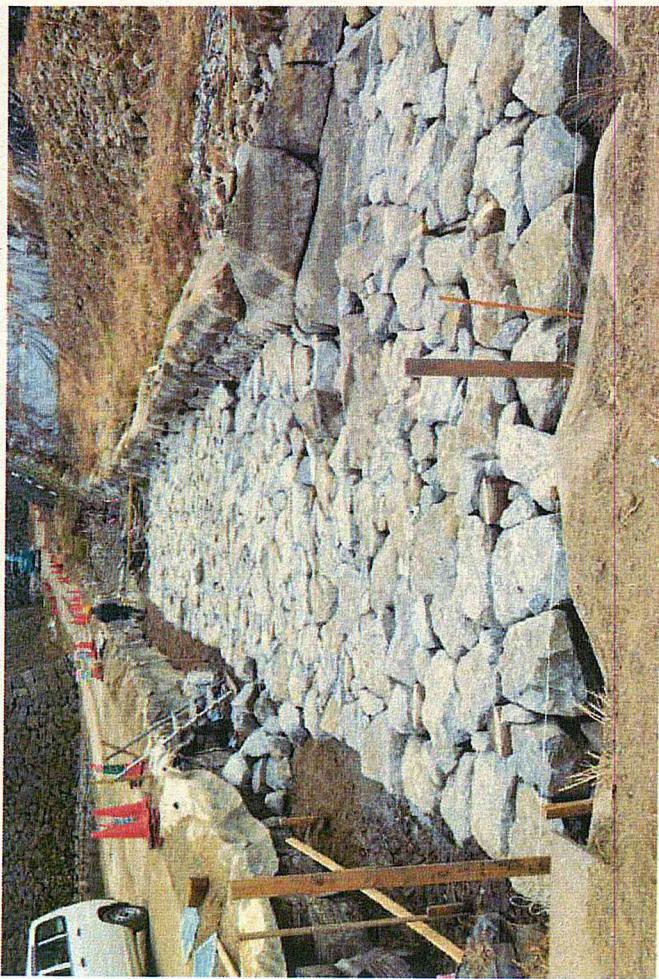
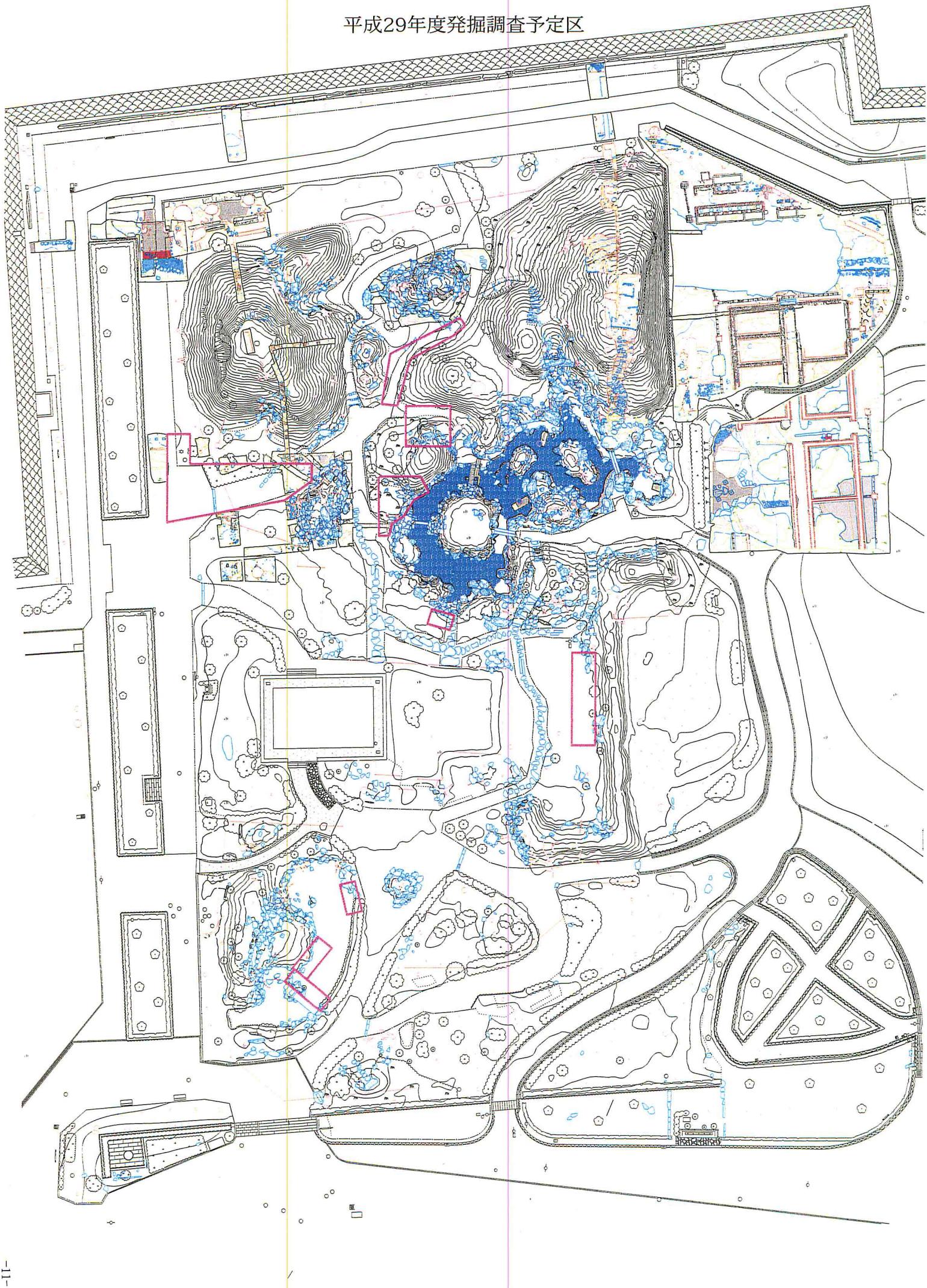


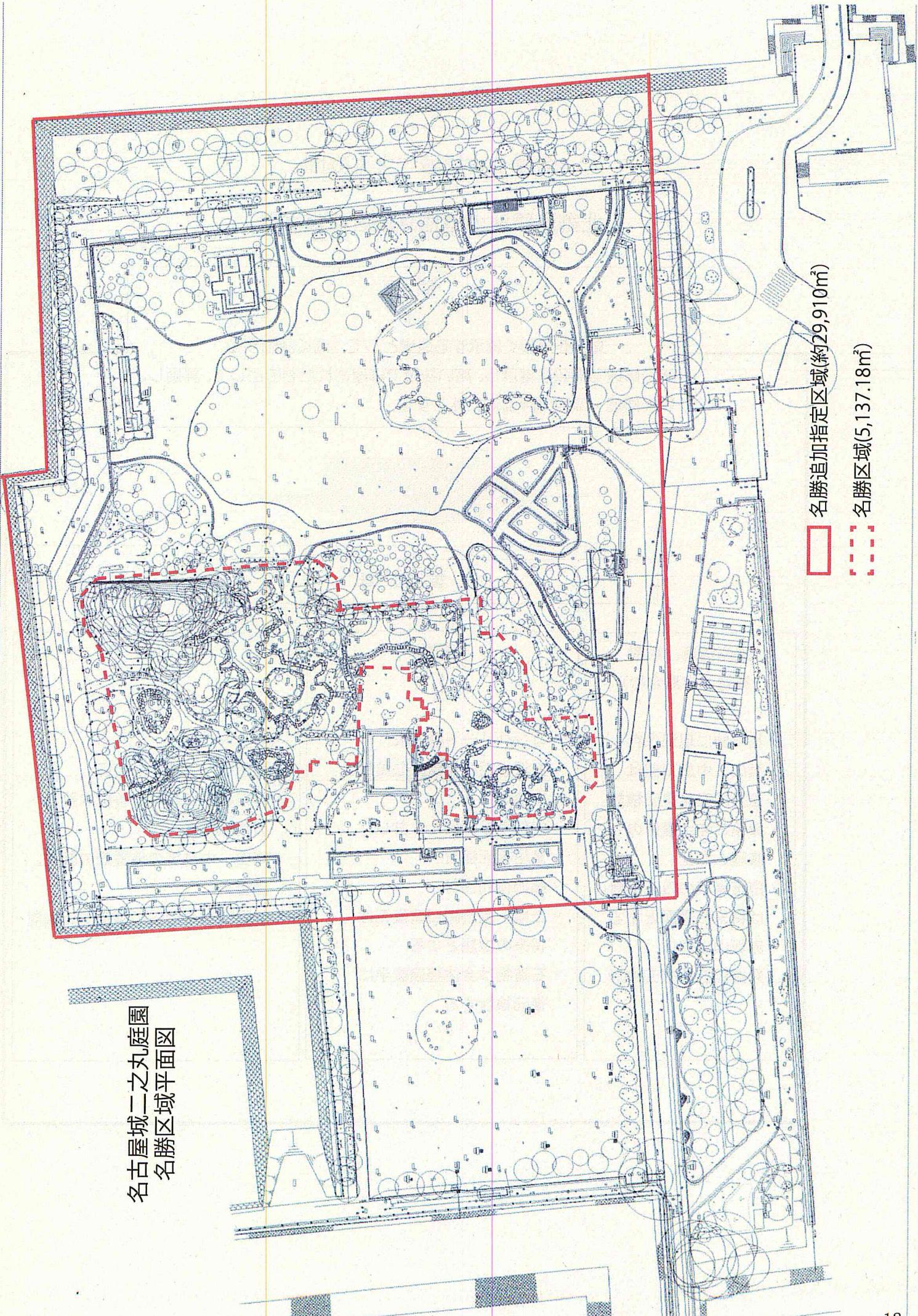
写真5 柱工施工状況 東面 北から



写真7 北東角の捨石 東面 東から

平成29年度発掘調査予定区





名古屋城二之丸庭園
名勝区域平面図

名勝追加指定区域(約29,910m²)

名勝区域(5,137.18m²)

名勝名古屋城二之丸庭園

北御庭園池の遺構評価と修復方針

評価



文政を色濃く継承する遺構として、高く評価する。

明治修理も文政を継承し、高い技術で修理されたものとして、評価し、戦後修理・改変は評価対象外とする。

修復方針

護岸構造、地割 (石組、中島含む)



- ・基本的に現況保存
- ・築山、中島頂部は発掘調査後復元検討
- ・漆喰三和土護岸の修理と保全
- ・南護岸沢の復元検討は将来の課題とする
- ・赤坂山上部は発掘調査後復元検討

構造物



- ・コンクリート橋撤去
- ・赤坂山西石橋据えなおし
- ・木橋復元
- ・大枯滝石橋据えなおし
- ・鳥居復元検討
- ・藤棚復元検討
- ・土橋、園路際石橋復元は将来の課題とする
- ・石造物は全体整備後半に復元検討する

植栽



- ・危険木伐採
- ・護岸等への影響木伐採
- ・特定の視点場から各構成要素への視線確保
- ・築山、中島等の地覆類の調整、健全化
- ・絵図にある植生の補植等の検討

平成29年度北園地修復予定部位位置図

樟垣山斜面に一部表土流出部
部分があるため、土嚢を撤去し、当
地のつき固め等の修理を行う。

東祐萬石組は上部大型石橋のすれかわり、撫えなおしと適切な固定を行う。また支持している砂岩の保存科学処理を行う。

北杜渕石組はき
損が少なく、滑溜
と堆積土除去、樹
木整理を行う。一
部に落下した磐
石を修理する。



復元して、後藤は坂山北橋に判明しておらず、撤去する。復元に際して検討する。



西枯滝石組はソテツがあり、特徴的な石材により形成されており、発掘調査を踏まえて、露出土展示の方向性を検討する。
池底玉石は撤去する。



権現山石橋の支持妙造が劣化しており、保存科学処理を行った。

北中島は樹木を伐採し、護岸を修理し、修繕する。
護岸石船は池底玉石船去後に竹地盤で作る。

は見られないため、目地修理と堆積土砂の清掃を行う。

池底全域の玉石は撤去し、漆喰三和土製の明治期護岸は次年度以降に修理する。

赤坂山東橋は保存現状修理とする。赤坂山頂部の形状に関する発掘調査を行う。

南嶺岸内に於ては地盤を明瞭化するため消滅と堆積土砂の撤去、目地修理を行う。旧将校集会所の排水と想われる陶管も位置する。

名古屋城重要文化財等展示収蔵施設について

1 施設整備計画

別紙のとおり (p17~p29)

2 外構整備計画

別紙のとおり (p30,31)

3 今後のスケジュール（予定）

年度	内 容
H29	<ul style="list-style-type: none">・第三専門調査会（建設工事現状変更許可に関する審議）・現状変更許可・建設工事着手
H30	<ul style="list-style-type: none">・建設工事完了
H31	<ul style="list-style-type: none">・外構整備
H32	<ul style="list-style-type: none">・展示収蔵施設供用開始

名古屋城重要文化財等展示収蔵施設について

趣旨

名古屋城の重要な文化財等を安全かつ適切に収蔵及び展示するため、江戸後期に存在した米蔵のうち、三番御蔵及び四番御蔵の位置（西之丸北部）に展示収蔵施設を整備する。

- 発掘調査の結果
 - 米蔵の位置や規模について埋蔵物の状況を確認することを目的として発掘調査を行ったが、米蔵の位置や規模を特定できる直接的な成果は得られなかった。

米蔵の規模及び配置の絵図等による検証 <資料1、資料2>

資料名	説明	三番御蔵				配置	長／幅／高	四番御蔵	長／幅／高	計測方法
		長／幅／高	長／幅／高(m)	配置	長／幅／高					
金城温古錄	奥村得義とその養子定が文政年間に名古屋城全般を調査した報告書。建物の規模等について詳細な記載があり、配置図（概要図）も挿入されている。実地調査を踏まえた資料である。	30間3尺／3間2尺3寸／2間2尺高)	55.45／6.15／3.64	東端が四番御蔵東端よりも西または四番御蔵東端と一直線	32間5尺／5間3尺5寸／2間2尺(軒高)	59.69／10.15／4.24	土台を基準として寸法を記載1間=6尺			
御本丸 御深井丸図	尾張藩主中村家に伝来した絵図。墨押しで一間単位で升目が引かれ、建物については柱位置まで詳細に描かれており寸法も記載されている。実地調査を踏まえた実測図であることが推定される。	28間／3間梁	55.16／5.91	東端が四番御蔵東端よりも東	30間／5間梁	59.10／9.85	柱を基準として寸法を記載1間=6尺5寸			

※長／幅／高：2つの資料の相違は計測方法の差（壁や土台の差）であり、ほぼ同じ寸法値を表している（資料3→建物の計基準としては、柱を基準とすることが適当だと考えられる）。『金城温古錄』においても三番御蔵東端が四番御蔵東端よりも東にずれていること、『金城温古錄』については概要図によつて三番御蔵の配置が異なる（→御本丸御深井丸図に準拠する）。

※高：御本丸御深井丸図には高さの記載はない（→金城温古錄に準拠する）。

※配置：他の絵図（『御深井丸内諸御役入詰所御作事本並所詮所取建方指図』、『名古屋城城郭図』等）においても三番御蔵東端が四番御蔵東端よりも東にずれていること、『金城温古錄』については概要図によつて三番御蔵の配置が準拠する。

展示収蔵施設の配置・平面計画 <資料3.4>

展示収蔵施設の配置位置は、三番御蔵南側、四番御蔵北側の4カ所を江戸後期に存在した御蔵の推定配置位置に合わせる。規模についても基本的には江戸後期の米蔵に合わせるが、往時の米蔵は小さいため収蔵庫等の機能確保のために寸法調整を行う必要がある。寸法調整については、御蔵構全体の配置への影響が小さくなるよう、三番御蔵の南西・南東、四番御蔵の北西・北東の隅を基準として内側に向かう方向にて調整を行う。なお、発掘調査では、江戸後期の御蔵の推定配置位置を否定するような事実は認められない。

また、三番御蔵と四番御蔵をつなぐ連絡棟を用いて、外観に配慮するとともに、規模等は文化財保存施設としての機能確保を重視する。

展示収蔵施設の立面・外観意匠計画 <資料5～9>

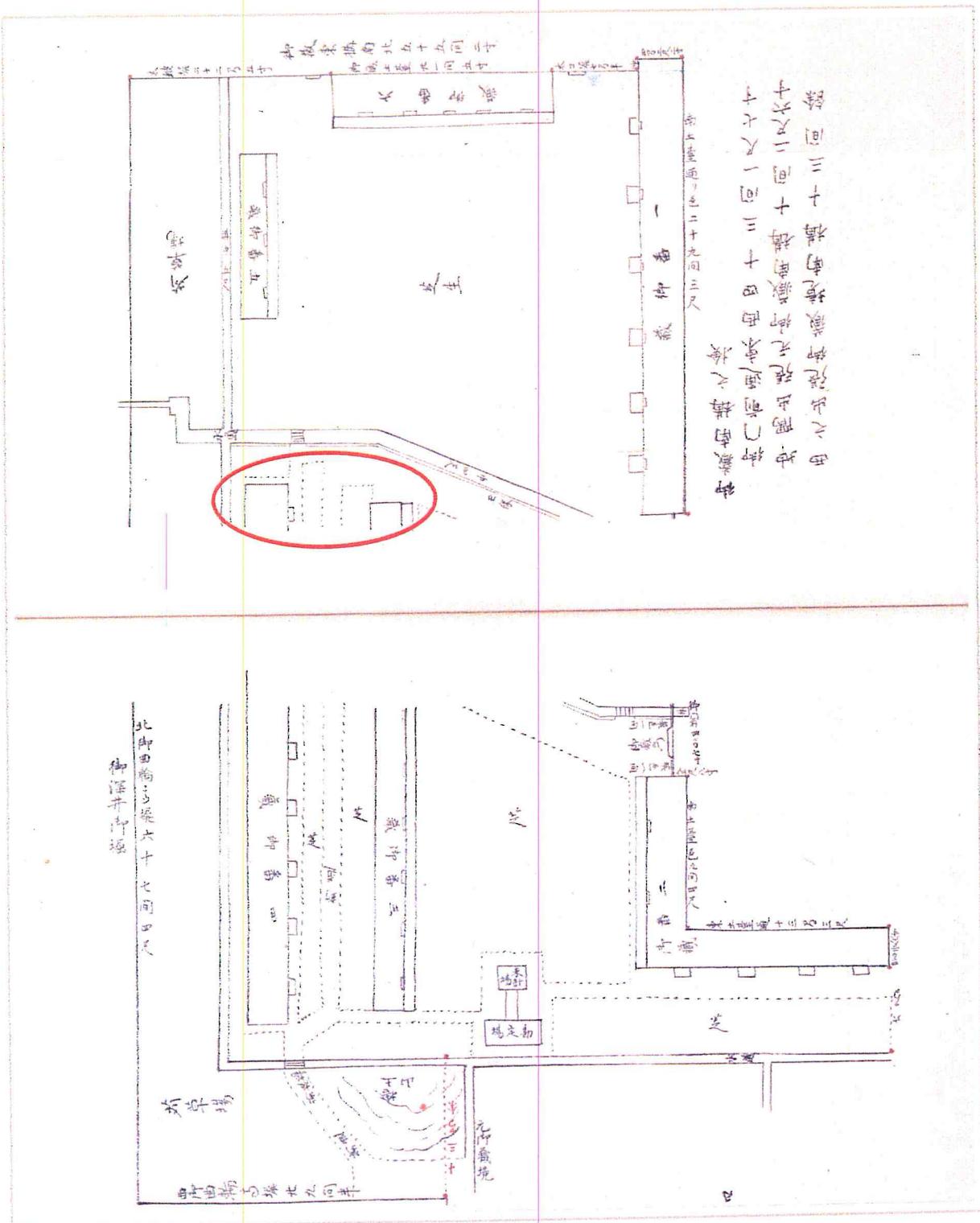
展示収蔵施設の立面・外観意匠は、本施設を特別史跡内外に整備することを踏まえ、江戸後期に存在した三番御蔵及び四番御蔵に準拠した計画とする（金城温古錄や古写真から外観意匠を検証した）。

展示収蔵施設の立面・外観意匠の整理 <資料5～9>

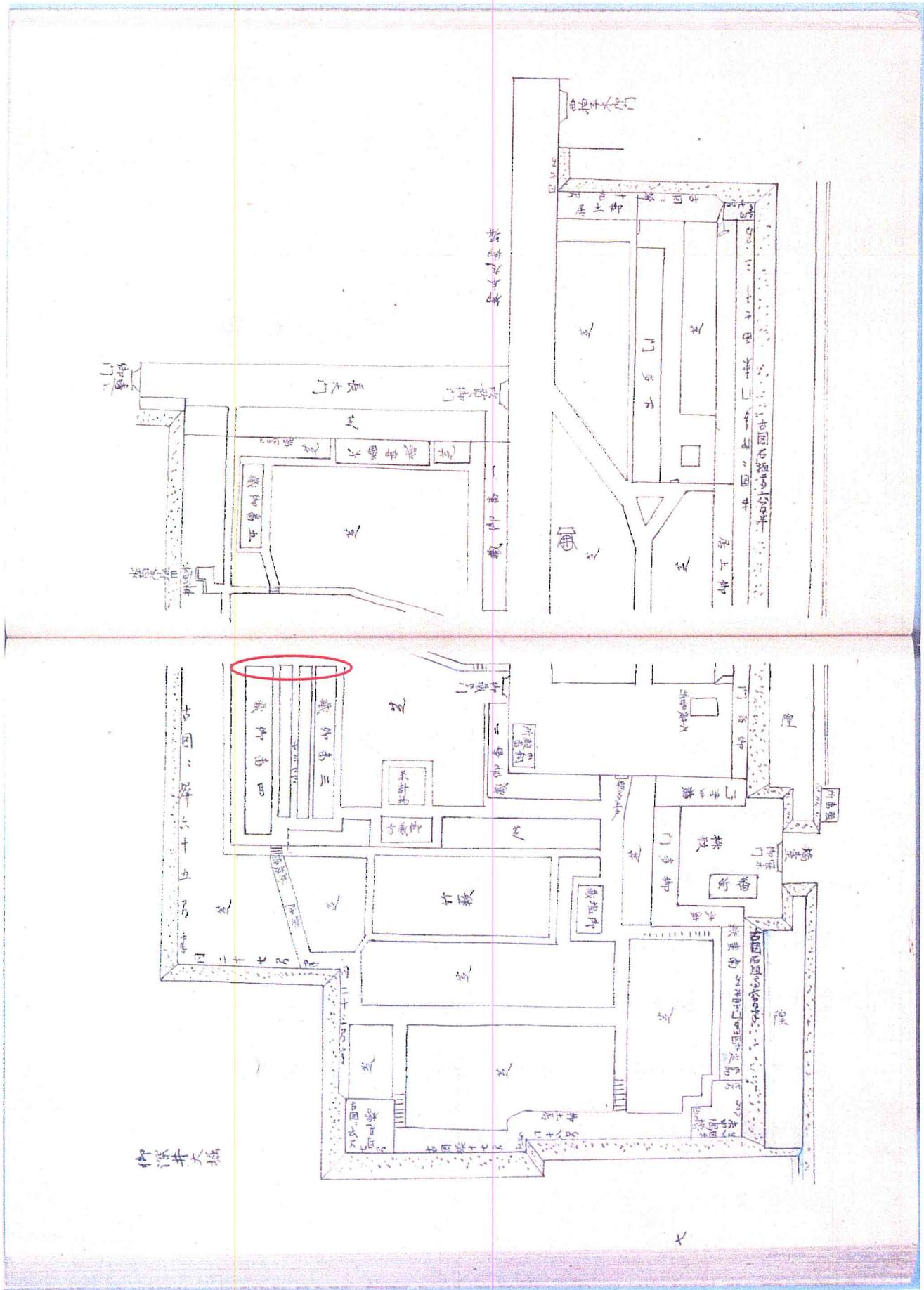
配置	立面(規模・構造)				庇	壁	腰壁	外観	屋根	屋根勾配	軒下垂木	
	長	幅	配置	階数								
三番御蔵	55.16m	5.91m	東端が四番御蔵東端より東	1階	3.64m	南面6力所	南面縦庇（四番御蔵と同様と推定）	検証資料なし（四番御蔵と同様と推定）	検証資料なし（四番御蔵と同様と推定）	検証資料なし（四番御蔵と同様と推定）	検証資料なし（四番御蔵と同様と推定）	
展示収蔵施設 (三番御蔵)	55.16m	5.91m	東端が四番御蔵東端より東	1階	6.05m(最低限の高さで検討中)	・機能面：法令上必要な開口部 内側：現代仕上 外側：外装意匠再現または現代仕上 ・その他の開口部 外側：外装意匠再現	鋼板葺き 鉄骨（不燃木）柱等	白漆喰風塗装	彫子下見板張り（妻側は高さ梁下まで）	切妻屋根、本瓦葺き	5寸～5寸5分勾配	RC成型、漆喰風塗装等
四番御蔵	59.10m	9.85m	—	1階	4.24m	南面6力所（南北とも同様と推定）	扉上部ごし庇（柱付き）、窓庇、板葺き	白漆喰仕上げ	彫子下見板張り（妻側は高さ梁下まで）	切妻屋根、本瓦葺き	5寸～5寸5分勾配	波形漆喰仕上げ
展示収蔵施設 (四番御蔵)	59.10m	10.84m	—	1階	6.05m(最低限の高さで検討中)	・機能面：法令上必要な開口部 内側：現代仕上 外側：外装意匠再現または現代仕上 ・その他の開口部 内側：現代仕上 外側：外装意匠再現	鋼板葺き 鉄骨（不燃木）柱等	白漆喰風塗装	彫子下見板張り（妻側は高さ梁下まで）	切妻屋根、本瓦葺き	5寸～5寸5分勾配	RC成型、漆喰風塗装等
機能確保	—	収蔵面積の確保	—	—	天井高さ 外装意匠への対応 構造強度の確保 深さの考慮	断熱・気密性、 防犯性等の確保	施工性、メンテナンス性の考慮	—	—	—	施工性、メンテナンス性の考慮	
検証資料	御本丸御深井丸図	御本丸御深井丸図	金城温古錄	古写真	金城温古錄	古写真	古写真	古写真	古写真	古写真	古写真	

展示収蔵施設の基礎構造等 <資料10>

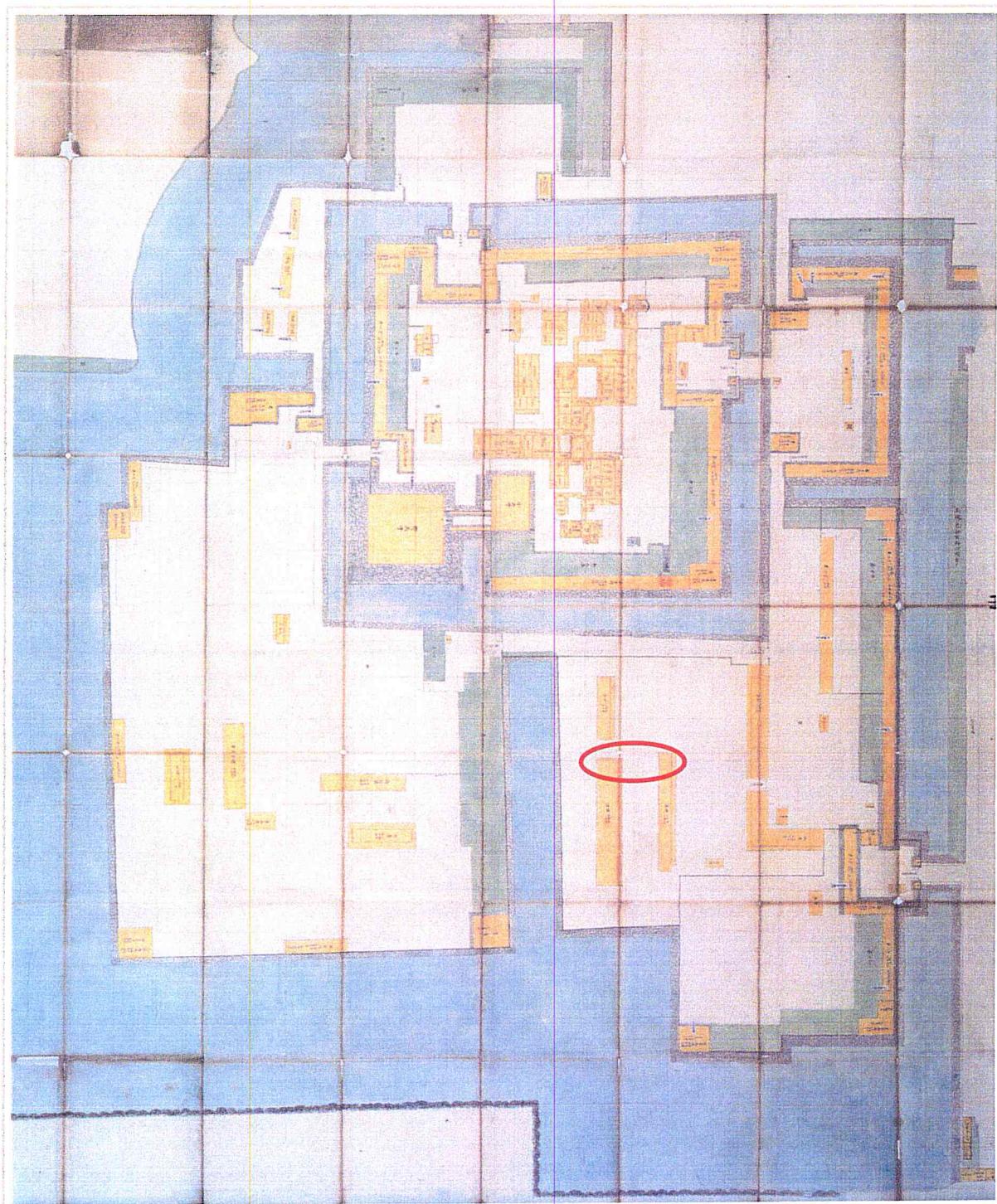
地中の遺構に影響がないよう極力掘削等を行わないこととし、基礎構造はべた基礎とした。地中の遺構は基礎構造によっては影響はない。



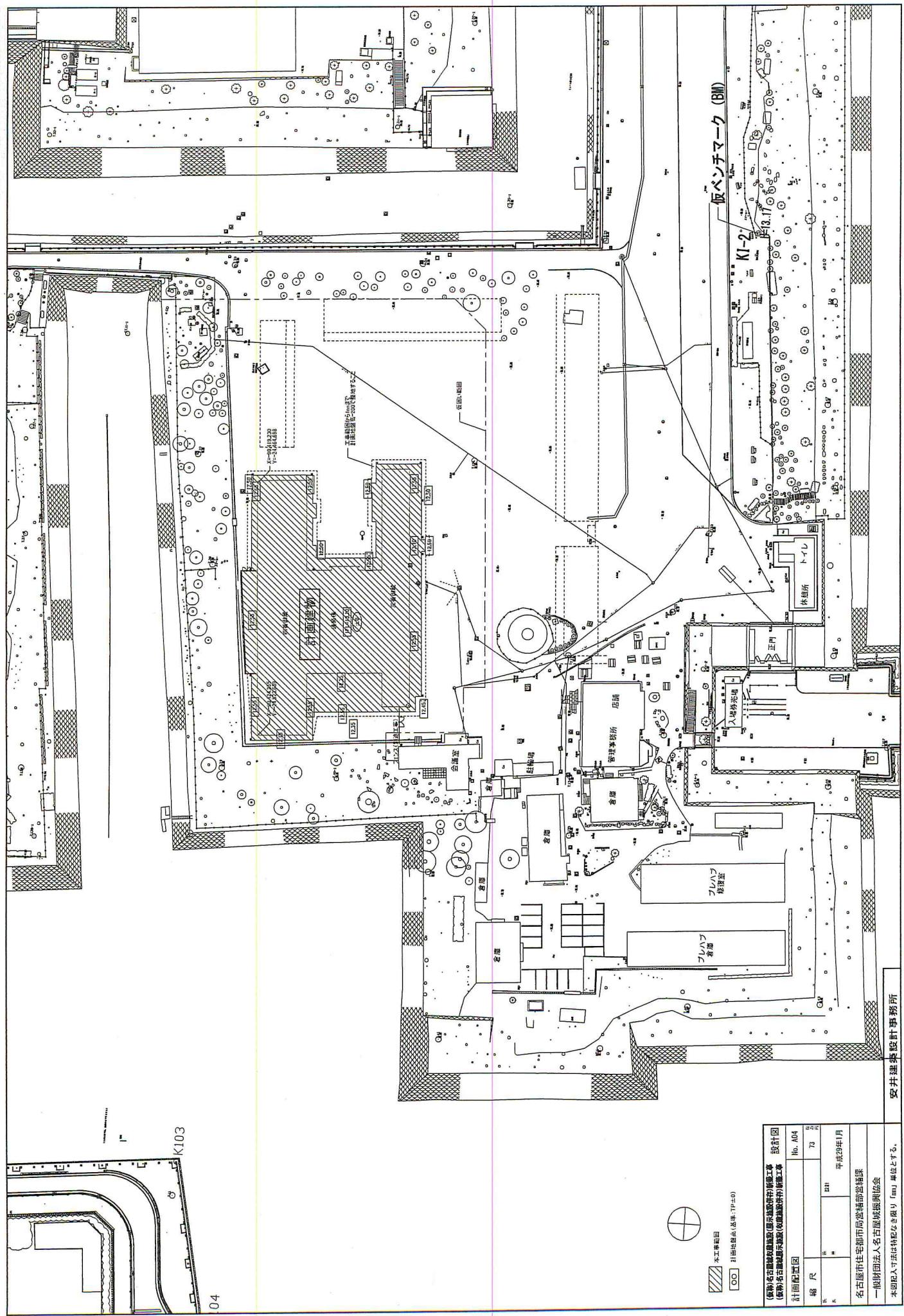
資料1-2 金城溫古錄卷27 御深井丸編之四 西之丸之部「西之丸大體」



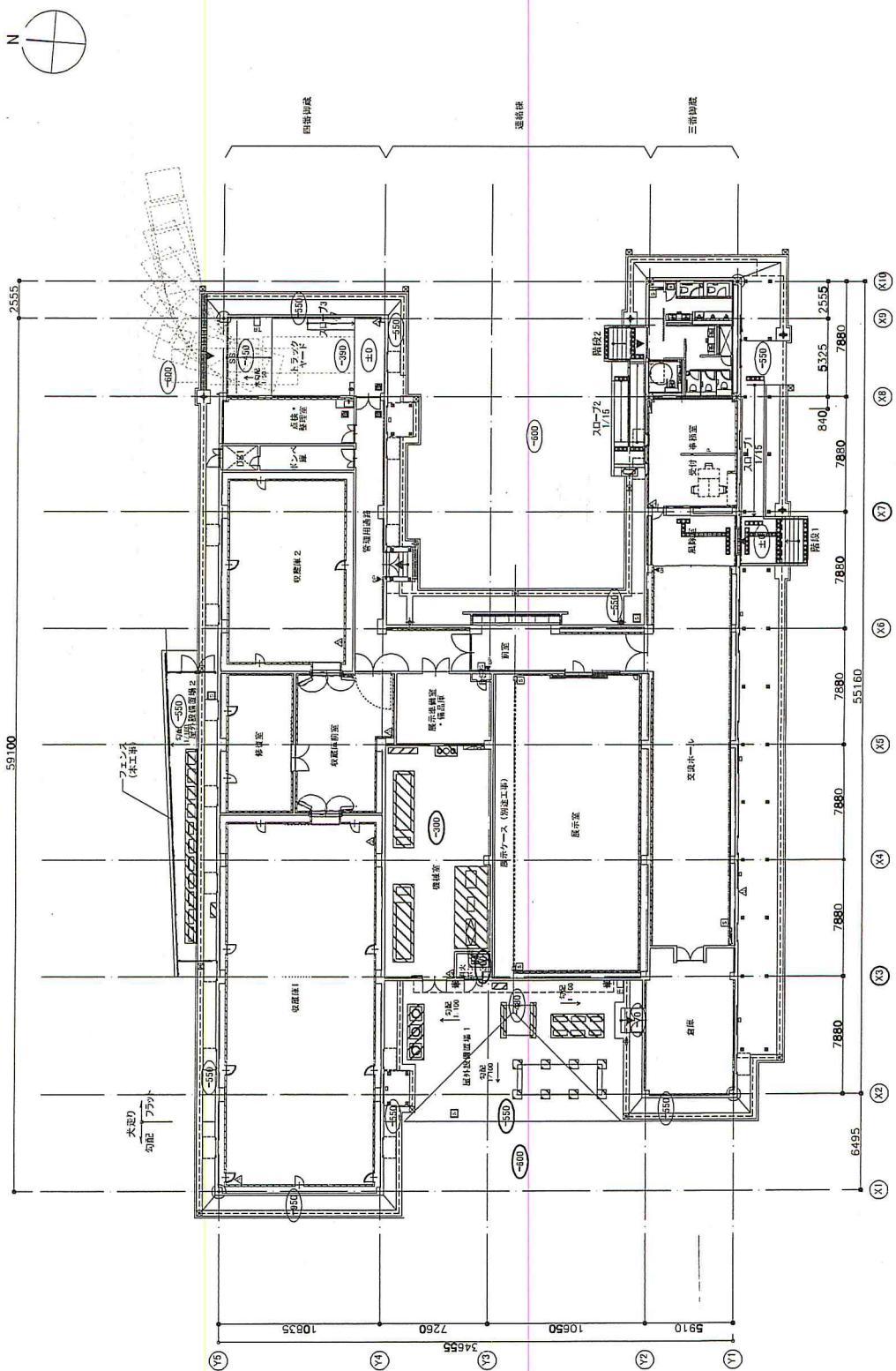
資料2 御本丸御深井丸図



資料3 展示収蔵施設配置図



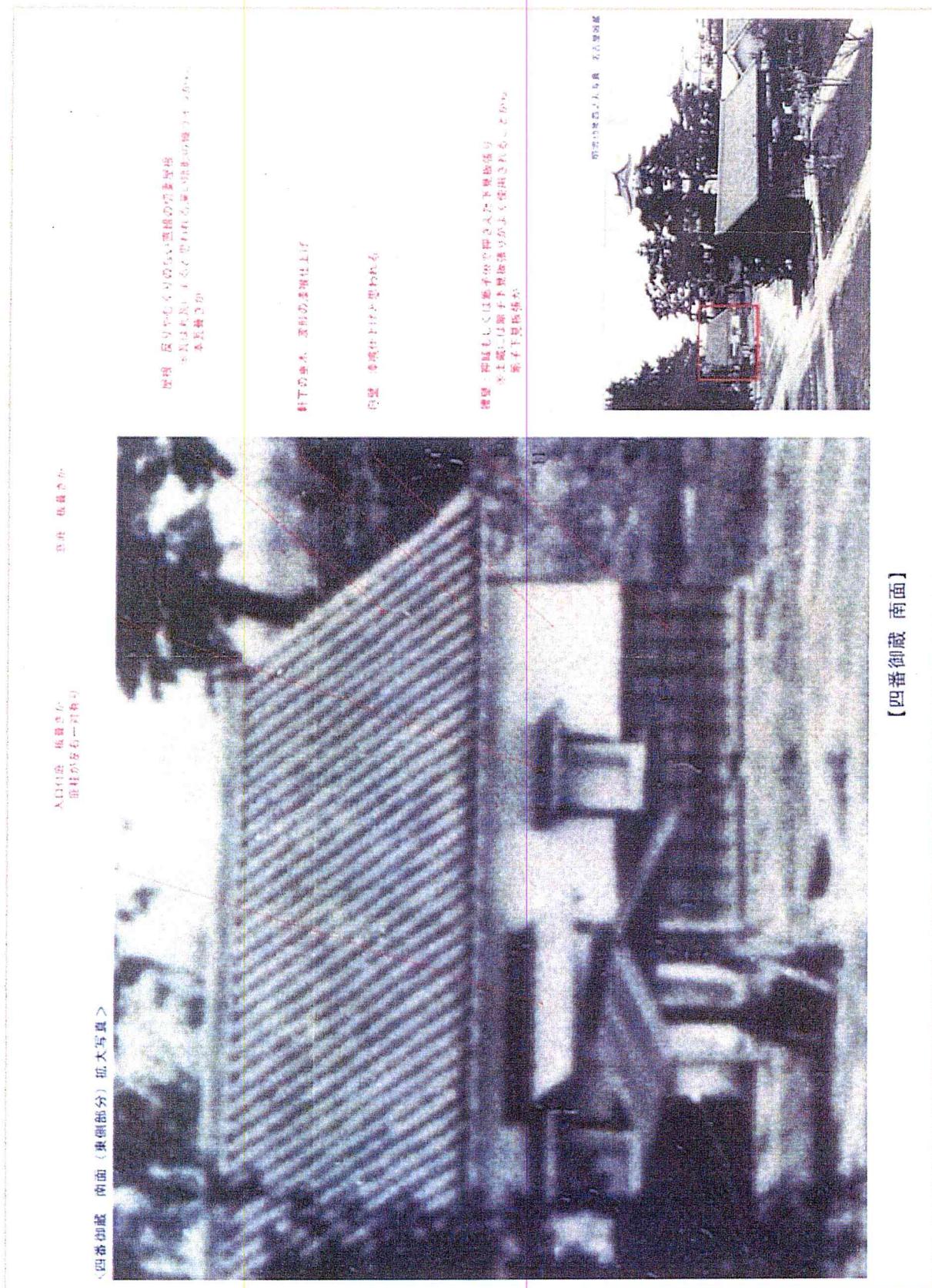
資料4 展示収蔵施設 平面図

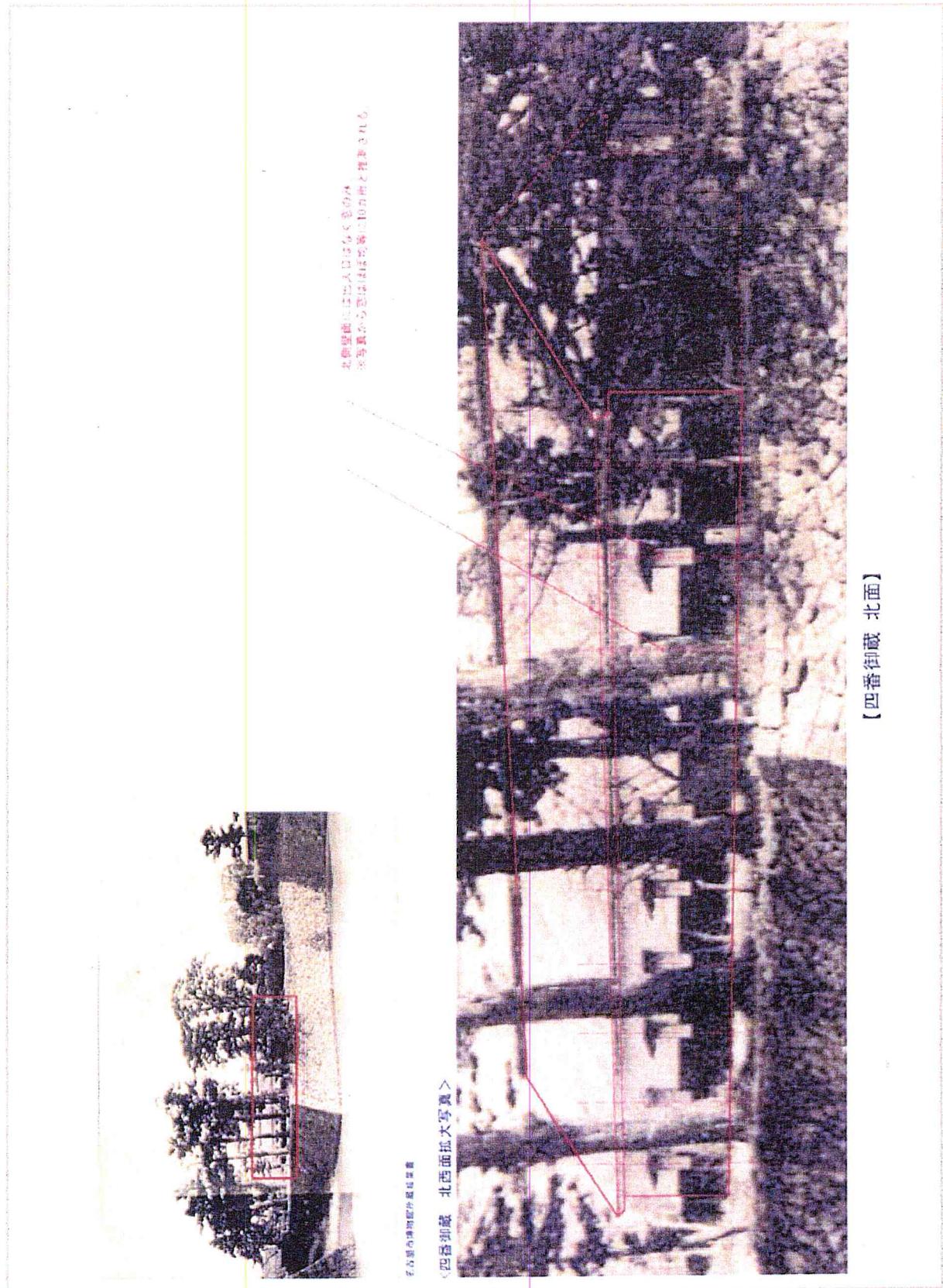


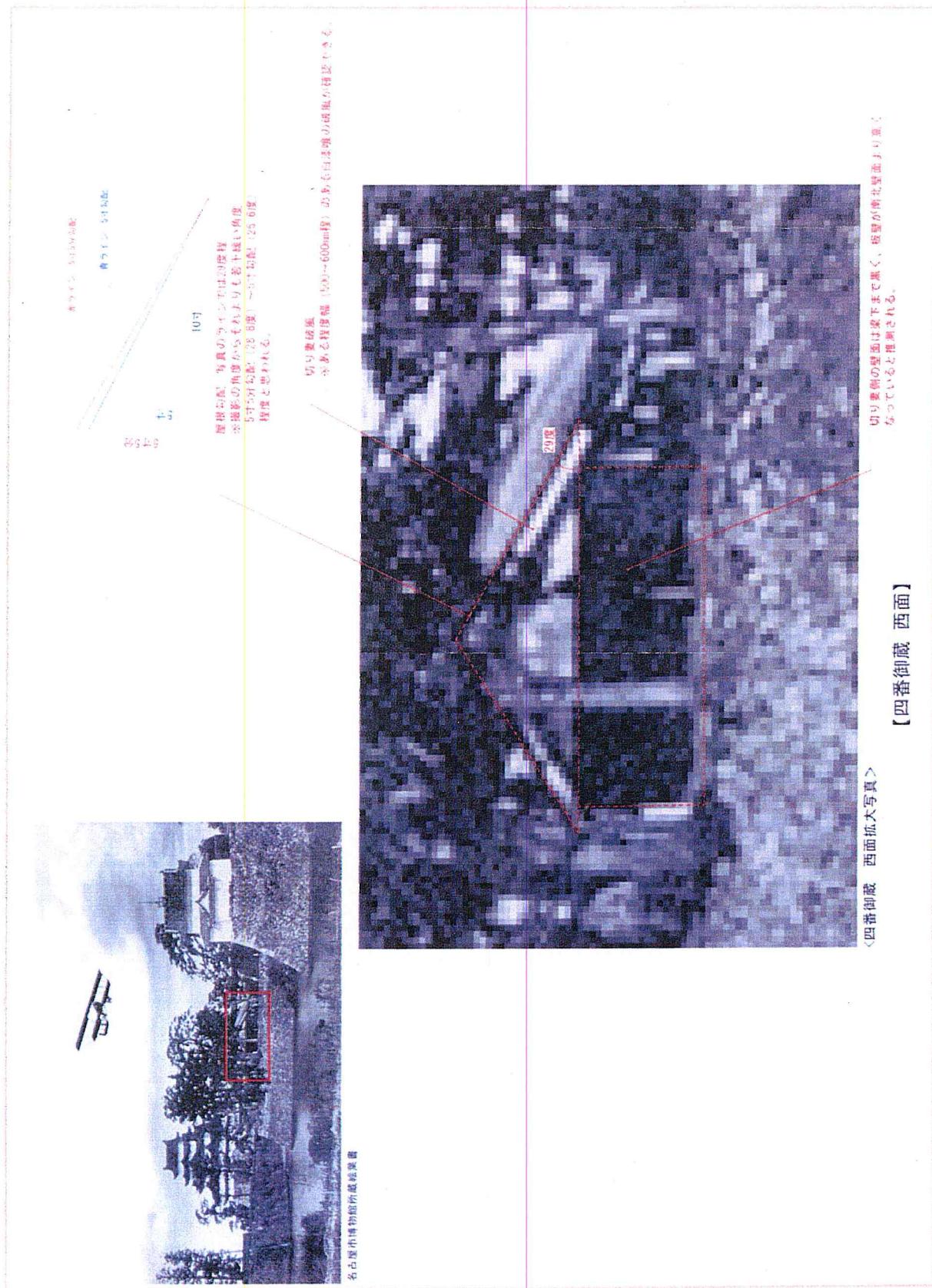
（略）地盤改良計画（原点高程表示版）（改修地盤表示版）				設計図
No. A05				
平面図				
幅 尺	A1:1/50	A2:1/300	73 m	平成23年1月
A	A	BH		

名古屋市住宅都市局常磐部営繩課
一般財団法人「名古屋市地盤改良公会」

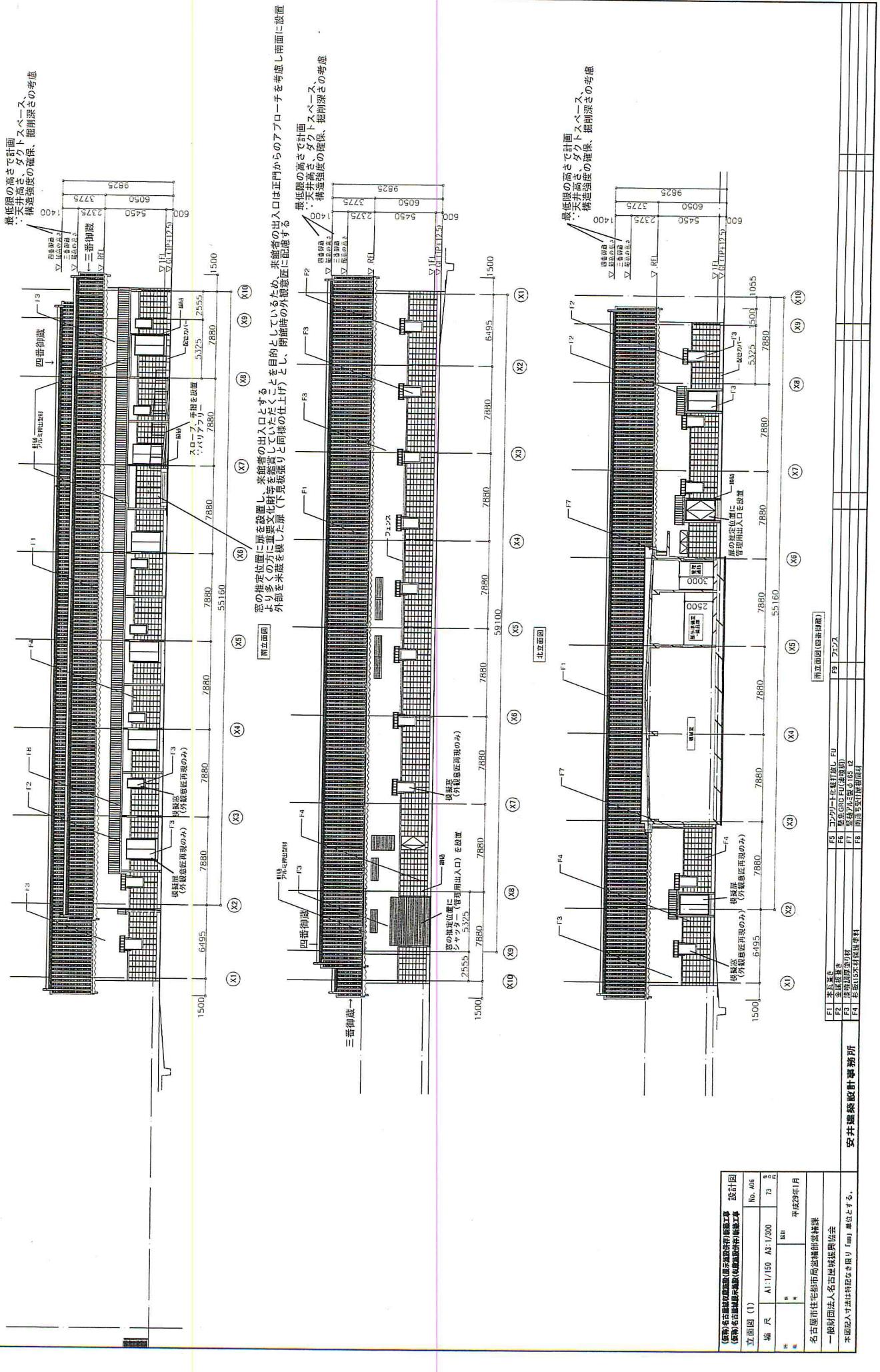
本圖記入寸法は各部記入寸法 [m] 単位とする。

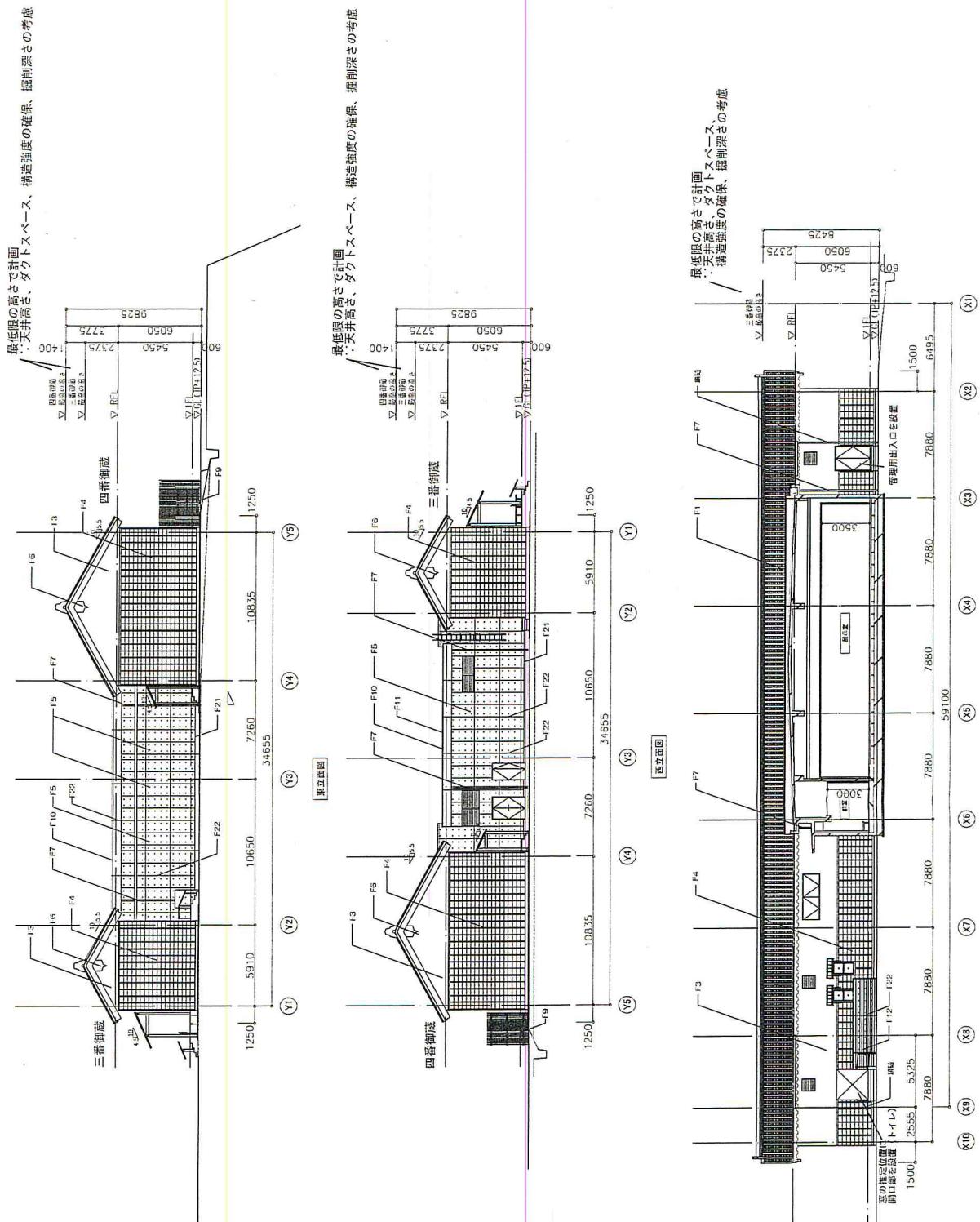






資料8-1 展示収蔵施設 立面図1



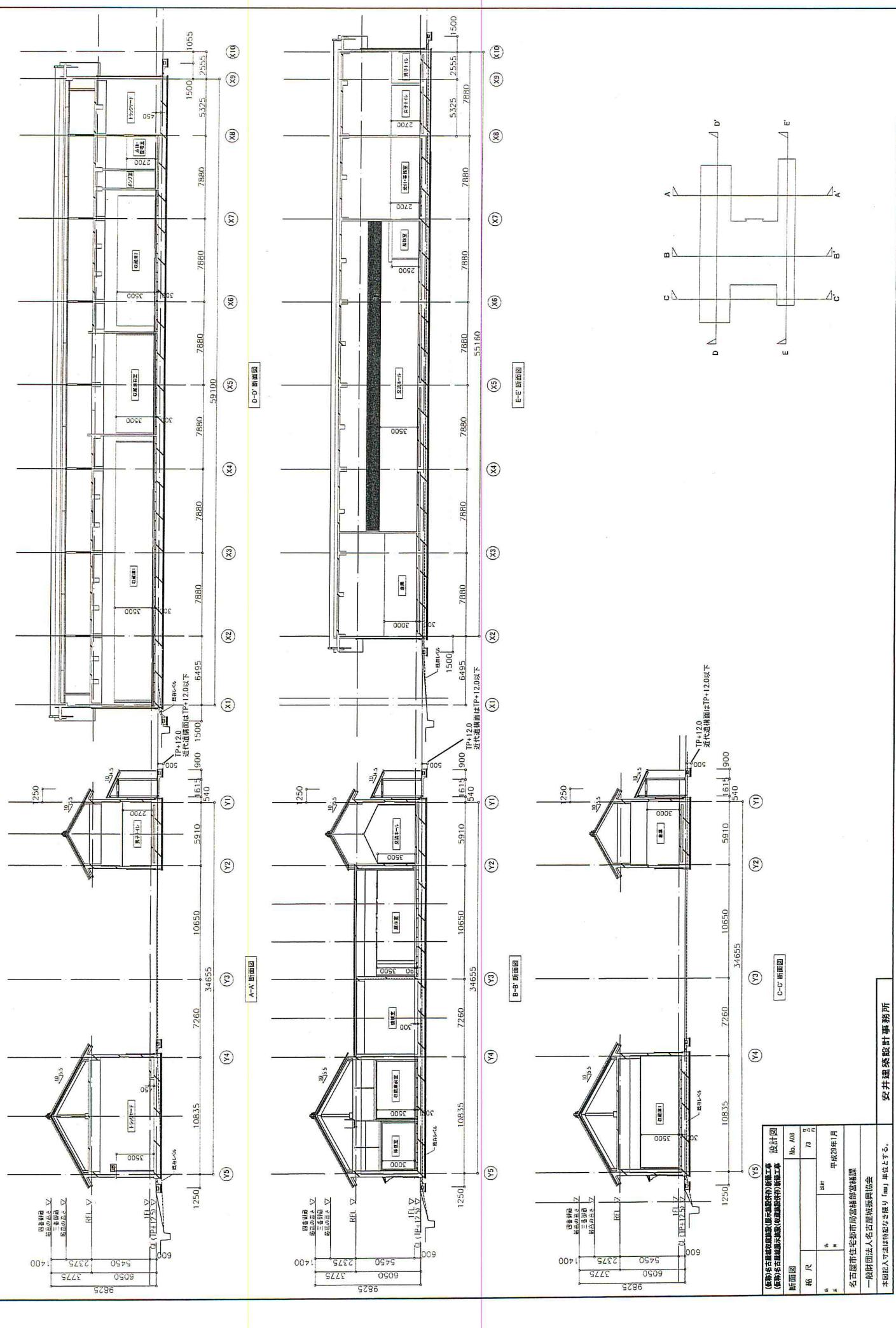


(原)名古屋市営地下鉄線(展示資料用)		設計図
(原)名古屋市営地下鉄線(展示資料用)		No. A01
立面図 (2)		
規格 尺	A1:1/150 A3:1/300	13 6 13 15
H	*	RH
	*	
		平成29年1月
名古屋市住・都市局営繕部監修課		
一般財團法人名古屋城塙町園芸協会		
本面入り寸法寸法記入なし「[]」付地ととする。		

資料9 展示収蔵施設 屋根伏図



資料10 展示収蔵施設断面図



名古屋城展示収蔵施設外構計画平面図

SCALE=1 : 600

